

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

遊びの始まりに注目／福岡市立金武幼稚園

遊びの始まりは、どのようなことがきっかけになっていますか？子どもたちが発想して始まっていますか？子どもたちの好奇心がきっかけになっていますか？保育者の環境の工夫がきっかけになっていますか？

遊びのきっかけに注目することで、感性、主体性、創造性の把握に繋がり、「科学する心」が育まれる体験が見えてきます。



○ 「砂と水はどっちが強い!？」／5歳児

✦ 遊びの様子

子どもたちが雨樋を組み合わせ、水を流す遊びを始める。

雨樋に砂を入れて、上から流す水により、砂が流れ落ちる。その様子に興味をもち、面白くなって繰り返す。砂と水のどちらが強いかが競争する遊びになる。

保育の工夫：自由に扱える遊具

雨樋など砂場道具、ペットボトルやペットボトルで作ったバケツ

✦ 遊びのきっかけ：雨樋に起きている事象と自分の関わりに注目し感性が育まれる

Aちゃんが、雨樋全体に砂をうっすら乗せる。そして、傾斜の上から水を流す。

そして、その砂が水と一緒にきれいに流れ落ちるのを見る。面白さを感じたAちゃんは繰り返し楽しむ。水の流れる勢いを感じている。【興味・関心】

保育の工夫：遊びの場や時間の保障

子どもたちが場を選んで遊べる

満足できる時間の保障、繰り返し遊べる時間の保障



✦ 展開1：考えをもち自分から意欲的に関わり主体性が育まれる

「倉庫の方まで行くかもね」「（水が）いっぱい流れたから、砂が流れたね」などと話しながら繰り返し遊ぶ。遊んでいるうちに、水の量が多いと、勢いよく砂が流れていくことに気付く。3人で一緒に水を流したり、より多く水が入る物（鍋）で試したりする。

保育の工夫：子どもの気付いたことを焦点化、共感

「水の量で砂を流す力が増す」という子どもの気づきを、周りの子どもも意識するように関わる。仲間になって遊び、水の量や流れる勢いを実感している場面で共感する。



✦ 展開2：新たな遊び方や考えが生まれ創造性が育まれる

水を流す子どもが多くなる。砂の方に関心が向いたBちゃんは、砂の力が劣勢になったと感じ、「砂が全部（流れて）いくから、（スコップで）押さえておいて」と、Cちゃんに頼む。「砂が全部いくから、こうして押さえていて」と言い、何とかして流されずに、水に勝とうと考えた。Cちゃんがスコップで堰き止めているのを見て、Dちゃんは、もっと水の量が必要だと思う。そして、「ダブルでいこう！」と、みんなと一緒に水を流すように声をかけた。その声で、2～3人の友達が一緒に水を流す。



✦ ポイント

この遊びは、雨樋に水を流す面白さから、流れる砂の様子に違いや面白さ、「きれいに流れ落ちる」心地よさなどを感じたことがきっかけになっています。保育者も感性を働かせることで、「いつものように砂場で遊んでいる」ではなく、子どもが体験している内容を細やかに読み取り援助することに結び付いています。援助（保育）のきっかけを逃さない保育者の姿勢が伝わってきます。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」